

国際政治経済懇談会 2020/06/19

川島真（東京大学）

新型肺炎問題と中国

1. 政治的ダメージとその回復

(1) 初動の失敗と中央政府の「登場」：旧式の動員と新型の社会管理

共産党政権の統治能力、動員能力が可視化される。

(2) SNS の相反する効果：武漢の医師の地位回復、民主活動家の拘束、ビッグデータ
管理、オンライン購買の農村への拡大、オンラインサービス

(3) 武漢の都市封鎖の終結と「回復」イメージの回復、象徴としての全人代：被拘束者増加

継続する PLA の海洋活動 + サイバー空間（+無人化、自動化の領域）

2. 経済面のダメージとその回復

(1) GDP の大きな落ち込み

2020年に、2010年の所得、GDPを二倍にするという「公約」は事実上不可能に。

ただ、マクロ経済については、2018年、2019年にすでに減退気味

そこから2020年に直ちに回復するのは困難。

(2) ただし、オンラインサービスの農村への拡大：新たなビジネスチャンス

「人間」の脆弱性：逆に「オンライン・ビジネス」の勃興、医療関係も

- (3) 欧米との貿易激減：対東南アジア、ロシアでカバーできるのか？
- (4) アメリカの仕掛けるディカップリング：台湾企業 TSMC のアメリカ進出、華為問題
- (5) ただし、5G の社会実装、衛星北斗の打ち上げ、先端産業の工場生産などは継続

* 無人化、自動化の新産業領域、ポスト・スマホの領域など

* 中国との経済関係の回復：その時に香港問題などでの支持を求める。

様々な問題での中国への支持を求めて、その様子を見ながら関係を回復させていく

(韓国の事例：サムソン会長の西安訪問など)

3. 国際的名声の「回復」

- (1) いわゆるマスク外交、対外宣伝、国内での言論統一

世界は中国に感謝している、と喧伝。中国発の病気との言説を払拭？

- (2) WHO との協調、世界的団結を提唱：これからのアフリカが勝負か。
- (3) 不都合な事実：アメリカや先進国からの批判 + アフリカからの批判

広州のアフリカ人コミュニティをめぐる問題

* しかし、中国からしか支援を得られない国々、地域では中国を支持することに。

4. 米中対策と現状変更

- (1) 新型大国関係維持：当初は比較的穏健に対応
- (2) 4月中旬の転換、傅瑩らによるキャンペーン：新型大国関係への疑義？

「アメリカの覇権の退場」

「これからは中国が国際秩序を創っていく」

(3) 軍事安全保障面での具体的な行動に：東シナ海、南シナ海

*9.11、リーマンショック、新型肺炎 アメリカの覇権の後退を早める

2049年にはアメリカに追いつくというシナリオ（2017年秋、19回党大会）

5. 日本の立ち位置

(1) 中国側の日本への関心

日本における「中国起源説」、日本の対中感情の変化

中国とのサプライチェーン、デカップリング

・中国人の入国、中国からの企業撤退、サプライチェーン

中国からの中小企業の撤退に支援？

(2) 東シナ海問題：河野太郎大臣は抗議、しかし政府としてはソフトな対応

(3) 台湾のWHOへのオブザーバー参加問題、しかしアメリカほど台湾にコミットしない

(4) 衛生をめぐる国際協調の再構築に何かしらの貢献ができるのか

(5) ポストコロナの最初の国賓は習近平なのか？

大きな論点

(1) 地球規模の秩序問題：国際協調主義、リベラルな経済秩序 / 権威主義体制と民主主義

+ 米中関係の悪化、という現象

* 中国方式の影響：権威主義体制の優位性？（東南アジアなど）

* 秩序形成の担い手になる中国？ アメリカの覇権の退場？

(2) テクノロジー問題、ディカップリング問題、国際公共財をめぐる問題

* 中国が仕掛けていたディカップリング：新型肺炎問題で加速

参考文献

<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00554/>

<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00553/>